

平成23年度 学校経営計画書及び自己評価計画書

石川県立輪島高等学校定時制

学校長 左 古 隆

1 教育目標

高い知性・豊かな徳性・強靱な身体を養うとともに、自立した社会人としてふさわしい勤労観・職業観を育み、広い視野に立って個性に富む文化の創造を目指す人間形成にあたる。

(1) 校訓

- ① 誠実 : あたたかい心のふれあいを大切にし、自分に正直に生きる。
- ② 覇気 : 困難から逃げず、高い志を掲げ自信を持って最後まで敢然と進む。
- ③ 努力 : 能力を最大限に発揮し、創意工夫しながら、たゆみなく努力する。

(2) 教育方針

知・徳・体の調和がとれ、自立的な社会人にふさわしい知識・技能を持つ人間の育成を目指し、地域の要望や生徒の実態を踏まえて、

- ① 学問の深さ、技術・技能の素晴らしさに触れ、これらの会得に努める人間を育成する。
- ② 人間尊重のあたたかい思いやりと強い連帯感を持ち、明朗で誠実な人間を育成する。
- ③ 積極・進取の気風に溢れ、たくましい体力と気力に満ちた覇気ある人間を育成する。
- ④ 一人一人の個性を生かし、向上と充実を目指してひたむきに努力する、実践力のある人間を育成する。

2 中・長期的目標

(1) 学校の現状

- ① 本校は昭和23年に開校した奥能登唯一の夜間定時制高校として、多くの人材を輩出し、現在もその役割を担い続けている。近年、過疎化・少子化の傾向とあいまって生徒数の減少が続いている中で、少人数の利点を生かし、生徒一人一人を大切にしたいきめ細かい指導に取り組んでいる。多様な生徒の実態に応じた指導の充実が期待される中、教師は研修や授業研究に積極的に取り組み意識改革と資質向上を図りながら、学校設定科目の開講など生徒の学習意欲を喚起する教育課程の編成に努め、単位制の特性を生かし、定通併修や技能検定等に積極的に取り組む指導をしている。「三修制」を希望する生徒に対して100%達成を目指し支援することが必要である。
- ② 定時制高校においては、「働きながら学ぶ生徒」の時代から、不登校生や中途退学者、特に教育的配慮が必要な生徒等「多様な生徒」の時代に変化している。そうした生徒に対して、家庭環境や生育歴を把握し、生徒指導や教育相談、進路指導の充実が不可欠である。総合的な学習の時間、学校行事や特別活動、ふるさと教育等を通して、事業所や地域社会との連携を一層深め、地域の特色や教育力を活用して地域社会への興味・関心を高めるとともに、活動を通して豊かな心とたくましく生きる力を育成し、学業と勤労を両立することができる「働きながら学ぶ生徒」が全校生徒の70%以上になることを目指す。

(2) 生徒に関する中・長期的目標

長期目標 : これからの時代をたくましく切り拓き、自己実現を図り、社会に貢献する人づくりを目指して、教育方針に示す人間の育成に取り組む。

- 中期目標 :
- ① 基礎・基本の学習に取り組み、生徒の実態に即したわかりやすい授業を展開し、確かな学力の定着と向上を図る。
 - ② 基本的な生活習慣を確立させ、規則を守り、常識ある態度を学ばせる。また、挨拶の徹底や正しい言葉遣いの習得、コミュニケーション能力の育成に努める。
 - ③ 能力・適性に応じた希望進路の実現のために、進路指導の充実を図り、更に地域のハローワークや商工会議所との迅速な対応や連携を密にし、希望進路〔進学・就職〕の100%達成を目指す。
 - ④ 豊かな心を育み、協力・協調する良好な人間関係を形成する。
 - ⑤ ふるさとを愛し誇りを持つ心を育み、わが国の文化や伝統を尊重する態度を育てる。

(3) 教職員や学校組織、学校経営の望ましい在り方

①教職員

- ・ たえず研修に取り組み、授業公開などを通じてわかりやすい授業の研究を行い専門性を高めるとともに、経営的力量の向上を図る。
- ・ 教育公務員としての服務規律を遵守することは勿論のこと、豊かな情操を養い、心身ともに健康で人間的魅力を感じる教師を目指す。

②学校組織

- ・ 校務の分掌を通じて職能成長が図られるよう人員配置を工夫し、若年層の主任起用を推進するなど人材の育成に努める。
- ・ 法規に基づいて校務を処理し、マンネリ化を避け組織の見直しを行い、課題解決に有効な組織編成に留意し活性化を図る。

③学校経営

- ・ 校長のリーダーシップのもと、一致協力して創意工夫した特色ある学校づくりを推進して学校改善を図り、入学希望者の拡大を図る。
- ・ 学校評価を真摯に実施し開かれた学校経営を図るとともに、学校開放講座や聴講制度により、生涯学習の推進に取り組む。

3 今年度の重点目標

(1) 基本的な生活習慣の確立と常識ある態度や言葉遣いの育成

- ① 学校生活の基本である欠席、遅刻、早退をしないように、きめ細かな指導に取り組む。
- ② 社会生活のマナーとしての正しい言葉遣いや挨拶・コミュニケーションができるように、常に機会を捉えて指導する。
- ③ 学業と勤労の両立を図るため、ハローワークや商工会議所との迅速な対応や連携を密にし、「働きながら学ぶ生徒」が全校生徒の70%以上になることを目指す。

(2) 「確かな学力」の育成と生徒の能力・適性に応じた進路選択の指導

- ① 全教員が授業を公開し、生徒の実態に即したわかりやすい授業の展開に取り組み、基礎・基本を身に付けさせる。
- ② 希望進路〔進学・就職〕の実現100%に向け、学力補充や資格取得の指導、面接指導等、進路学習の機会の充実を図り、きめ細かな指導に取り組む。

(3) ふるさとを愛し誇りを持つ心を育み、文化伝統を尊重する態度の育成

- ① 特別活動や学校行事を通して石川が誇る伝統工芸である輪島塗を体験する。
- ② 特別活動や学校行事を通して能登の食材を活用した調理実習等で能登の食文化を理解する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	実現状況の達成度判断基準	判 定 基 準	備 考
1 基本的な生活習慣の確立と常識ある態度や言葉遣いの育成	① 学校生活の基本である欠席、遅刻、早退をしないように、きめ細かな指導に取り組む。	生徒指導 教育相談 各教員	日常的に欠席、遅刻、早退をする生徒が多い。特に、遅刻は全校生徒の20%以上いる。	【成果指標】 きめ細かな指導によって欠席、遅刻、早退をする生徒を減少させる。生活習慣の見直しを図る。	欠席 遅刻 早退(1日平均)が全校生徒の A : 15 15 10%以内となった。 B : 20 20 15%以内となった。 C : 25 25 20%以内となった。 D : 30 30 25%以内となった。	C・Dの場合は指導法を再検討する	前・後期で集計する。
	② 社会生活のマナーとして、正しい言葉遣いや挨拶・コミュニケーションができるように、常に機会を捉えて指導する。	生徒指導 各年次	社会生活を営む上での基本的なマナーが身に付いていない生徒が40%以上いる。	【成果指標】 正しい言葉遣いや挨拶ができるようになる。場面に合った言葉の選択ができるようになる。	正しい言葉遣いや挨拶・コミュニケーションが A : 80%の生徒ができた。 B : 70%の生徒ができた。 C : 60%の生徒ができた。 D : 50%の生徒ができた。	C・Dの場合は面接して個別指導する	
	③ 学業や勤労の両立を図るため、ハローワーク等との連携を密にし、「働きながら学ぶ生徒」を増やす。	進路指導 各教員	働きながら学ぶ生徒が、昨年度末53%、本年度当初55%である。	【成果理解】 学校と職場でもよりよい人間関係を構築し、学業と勤労の両立を図る。	働きながら学ぶ生徒が全校生徒の A : 70%以上となった。 B : 60%以上となった。 C : 50%以上となった。 D : 50%未満となった。	C・Dの場合は個別指導をして就労を促す。	
2 「確かな学力」の育成と生徒の能力・適性に応じた進路選択の指導	① 授業公開や意見交換、また生徒による授業評価が行われ、生徒のニーズを把握して学習意欲の一層の向上に努力する。	教務 各教員	生徒の実態に即した分かりやすい授業が概ね行われている。	【満足度指標】 生徒が興味・関心をもって学習に取り組んでいる。	A : 大変分かりやすく理解できる B : 概ね分かりやすく理解できる C : やや分かりにくく理解できない D : ほとんど分からず理解できない	C・Dと答えた生徒が4分の1以上いる教員には、授業の改善を指示する	生徒にアンケート
	② 卒業予定者全員の希望進路の実現に向け、学力補充や面接指導等による進路学習の機会の充実を図りながら、生徒が満足するきめ細かな指導に取り組む。	進路指導 各年次	卒業予定者7名中4名は進学希望者である。就職希望者においては具体的な希望進路が明確になっていない。	【成果指標】 卒業予定者全員の希望進路を実現させる。	卒業予定者の希望進路の実現を A : 100%達成した B : 80%達成した C : 60%しか達成できなかった D : 40%しか達成できなかった	C・Dの場合は指導法を再検討する	
3 ふるさとを愛し誇りを持つ心を育み、文化伝統を尊重する態度の育成	① 特別活動や学校行事を通して、石川が誇る伝統工芸である輪島塗の体験や能登の食文化について理解する。	教務 各年次	ふるさとの伝統工芸の輪島塗や能登の食文化を理解していない生徒が多い。	【成果指標】 ふるさとの文化伝統の輪島塗や能登の食文化について、理解を深める学習をすることができた。	ふるさとの伝統工芸や食文化を理解できた。 A : そう思う B : どちらかといえばそう思う C : どちらかといえばそう思わない D : そう思わない	C・Dの場合は次年度の具体的な取り組みを修正して実施する	生徒にアンケート

-